

日本におけるブレイクダンスの発展—日本人の意識変化に着目して—
The Growth of Breakdance in Japan
—Focusing on Change in Consciousness of Japanese People—

指導教員

1K08B008-1
主査：石井昌幸先生

安達裕亮
副査：寒川恒夫先生

【動機】

現在、日本においてストリートダンスは小中高校の保健体育の教育課程に採用され、またドラマの主題となる等、確実に文化として根付いている。そのストリートダンスの中でも、最も歴史があるものの一つであり、ヒップホップカルチャーの一要素となっているように、非常に文化的な特性が強いのがブレイクダンスである。

ストリートダンスの中でも特に強い自己主張と攻撃的な表現を特徴とし、個性を最も尊重するブレイクダンスは、その保守性や集団主義、また控えめな態度といった特性を指摘される日本でどのように発展していったのか。私はこれまでブレイクダンスを実際に行ってきた事からも、国内におけるブレイクダンスの発展にあたって、日本人の特性と時代ごとの意識変化がどのように作用したのかを研究したかった。

【目的】

これまで、ブレイクダンスの発展を人々の意識変化と関連づけて論じた研究は行われてこなかった。本論文では、ブレイクダンスと日本人の意識変化を互いに関連させながら、一体どのようにして「熱しやすく冷めやすい」性格などが指摘される日本において、ブレイクダンスが一過性のブームとして消える事なく、文化として日本に根付いていったのかを明らかにする。

それによって、ブレイクダンスというサブカルチャーの一種が、発展するにあたってどのような人々の意識変化が要因となったかを探り、それを基に今後の展望について考察する事を本論文の目的とする。

【方法】

主に日本人とストリートダンスに関連する書籍とインターネット上の資料を用いた研究を中心とする。

【概要】

第1章では、ヒップホップカルチャーの起源と歴史を紐解き、その一要素としてのブレイクダンスの文化的な側面を明らかにする。第2章では、日本人の土着のアイデンティティとなっている特性を形成するに至った要因から考察し、ブレイクダンス受容にあたって影響した要因と関連づけて論じる。また、ブレイクダンス伝来から続いたブーム期におけるブレイクダンスの発展と日本人の意識変化について探る。第3章では、第3次ダンスブーム期から現在までのブレイクダンスの発展と日本人の意識変化について探り、第4章では現在のストリートダンスシ

ーンにおける課題と正の要因、そして発展にあたってのビジネスと文化両側面とそれらが抱えるジレンマについて論じ、今後の発展についての展望を考察していく。

【結果と考察】

ブレイクダンスの発展にあたって、日本人の意識変化で重要なものとして、大きく分けると「個人主義への推移」「余暇の拡大」「社会への不安の増大」の3つが確認出来た。集団主義が国民性としてベースにありながらも、個人主義の傾向が強まり、人生における精神的な部分の充実を重視するために、人々の余暇を重視する傾向が強まった事が考察から確認出来た。そして、これまでの終身雇用制度が崩壊し、社会への先行き不安が増大する事で、雇用形態が多様化し、自分の好きな事に最も時間とエネルギーを投資する傾向の強いフリーターと呼ばれる人々が増加していった。このような、意識変化が最も日本国内におけるブレイクダンスの発展に関わっていたものと思われる。

また、メディアが人々の意識変化及び、ストリートダンス全体の発展に作用した事が分かった。ブレイクダンスはメディアによって日本中の人々に認知され、シーンは活性化していった。

そして、人々の意識変化やメディア以外にも特筆出来るものとして、ブレイクダンス自体がより多くの人々に受け入れられる魅力あるダンスへ進化を遂げていった事が、発展に繋がる重要な要因だったと言える。

このように、ブレイクダンスが国内において発展していった背景には、人々の意識変化に加え、「メディアによる影響」と「ブレイクダンス自体の変容」というように、複合的な要素が絡み合った相互作用が働いていた事が本論文を通して理解出来た。

これからのブレイクダンスの発展にあたっては、ビジネスの視点を持ち込む事が重要と指摘出来たが、一方で文化として核にある部分は確実に保持・継承していかななくては形骸化してしまうだろう。つまり、今後の発展にあたっては、ビジネスと文化の両面でのバランス感覚がより一層求められる事になると言える。